

施設へ行こうよ!

伊豆の国市の施設紹介



市内に点在する多くの公共施設。これらの施設を皆さんにもっと利用していただけるよう、このコーナーでは、市内にある公共施設を順次紹介していきます。

第5回 大仁まごころ市場

並ぶ新鮮農産物

みずみずしい朝採り野菜が手に入ること、平日・休日問わず多くの人が訪れる、大仁まごころ市場。朝九時の開店を待ちきれない人たちが連日、長蛇の列ができるほど。二〇〇三年五月にオープンし、昨年度は月平均一万五百人が来場。人気のスイカやトウモロコシをはじめ、四季折々の新鮮な野菜が豊富に揃います。この季節、場内にはジャガイモ、トマト、枝豆、

オープンから三年目を迎えた大仁まごころ市場。その評判を耳にした人も多いため、「新鮮・安心・安価・美味しい」を合言葉に、まごころ込めて地元農産物を販売中です。人気のため午後には品薄状態に。早起きして、いざ、まごころ市場へ!

葉シヨウガなどが並びます。ひじき菜やルッコラ、各種ハーブなども手に入り、商品はすべて生産者の名前入りで、それぞれの産物の特徴やレシピも掲示されています。

多くの人に出荷を

この市場は、出荷登録者が生産した農産物を探れたときに採れただけ、市場に並べて販売する「朝市」のようなシステム。現在登録者は三百人ほどで、登録さえすれば、市民ならどなたでも販売可能です。週に一回以上出品する人もいれば、年に一回、粟だけを出す人もいます。出荷者は随時募集していて、特に伊豆長岡・葎山地区の生産者は大歓迎です。

この時期、良質なスイカが並びます

この時期、良質なスイカが並びます。週に一回以上出品する人もいれば、年に一回、粟だけを出す人もいます。出荷者は随時募集していて、特に伊豆長岡・葎山地区の生産者は大歓迎です。

大仁まごころ市場

住所 田原野 440 4
営業時間 9:00 ~ 16:00
休み 第1・3木曜日、大晦日、正月5日間
*7・8月は無休
駐車場 70台(無料)
問合せ 電話 0558 75 4580

<http://e47/jp/oht/magokoro/>



出荷者募集!

伊豆の国市に住民票を持つ人、または加工所を持つ個人や法人は、「大仁まごころ市場出荷運営協議会」に加盟すれば、自由に出荷できます。
【申込み方法】
加入申込書と年会費3,000円を添えてJA伊豆の国田中支店へ。詳しくは、まごころ市場へお問い合わせください。

開催中 まごころ もろこし祭・スイカ祭

甘いと好評のトウモロコシとスイカを集中販売しています。スイカは全品試食できるので、味見をして気に入ったものどうぞ。売り切れる場合があるので、なるべく早い時間にお越しください。



子どもも大喜び

新鮮農産物だけではなく、地元農家の人たちが手作りのたくあんや梅干し、地元牧場産のアイスなどもあります。また夏季には、子ども達に大人気の天然カプトムシや天然クワガタ、スズムシ、淡水エビなども手に入ります。

8月20日(日)まで

第16回

いずのくにの女ひと

このコーナーでは、伊豆の国市内に住む、働くまたは縁のある輝いてる皆さんを紹介していきます。

今回は、8月20日(日)の劇団DAN公演「出撃～沖縄の空～」(16ページ記事参照)に出演する高校1年生・浜村七々美さんを紹介します。



浜村七々美さん(劇団DAN)
南江間在住。高校では、茶道部に所属。
趣味はエレクトーン。好きな言葉は「I wish you the best of luck」

「DANの温かい雰囲気が好き。だから高校生になった今でも続けているんです」と七々美さん。劇団DANは、もともと、長岡中学校の演劇サークルが前身。二年前、顧問だった松井清高先生(現・土肥中学校教諭)の転任で、サークルは解散しました。「ショックでした。小学校のとき公演を見て感動し、やっと入れた憧れのサークルが、入部してたった一年でなくなってしまうなんて、どうしても演劇がやりたい」という情熱は冷めやらず、七々美さんと仲間たちは、松井先生や周りの大人たちを説得。ついに「劇団DAN」として復活したのです。

今年で結成三年目を迎える劇団DANは、今まで三度の舞台公演を経験しました。団員は現在約四十人。「来る者は拒まず」という自由な気風の劇団は、いつしか中学校演劇サークルの枠を超え、下は小学校五年生から、上は六十代まで、幅広い年齢の人たちが毎週集い、稽古に励むようになりました。七々美さんは、稽古のある火曜日がかかるのが楽しみで仕方ないそうです。「練習が始まる前も、練習中も、終わった後も、公演も、活動のすべてが楽しくて仕方ないんです。DANが存続する限り、私はいつまでも演じ続けたいです。」



稽古では劇団のみんなで台本を読み合わせを(写真左が七々美さん)

で、太平洋戦争で戦死した神風特攻隊青年の弟の孫娘役を演じます。平成生まれの七々美さんは、この劇をやるにあたり、本やインターネットで太平洋戦争について調べ、驚愕したと言います。「六十一年前の日本で、こんな悲惨な現実があったことに、しばらく言葉がでませんでした。戦争は絶対だめです。心から、二度とこんなことは起こしてはいけないと思います。この劇を見た人にも、同じ気持ちを感じてほしい。」その言葉に、楽しいだけではなく、劇団DANの活動の本質を見た気がしました。将来の夢は、中学校の先生という七々美さん。彼女が、この劇で私たちに伝えようとするメッセージを、しっかりと学び取りましょう。

広報

いずのくに

は毎月2回発行!

広報「いずのくに」は、毎月1日号と15日号を発行しています。1日号は各自治会(区・組)を通じて配布し、15日号(タブロイド版)は新聞折り込みで皆さんにお届けしています。広報紙がお手元に届かない場合は、各支所、公共施設(アクセスかつらぎ、めおと湯の館、図書館など)、農協や郵便局、金融機関などにありますので、ご利用ください。

問合せ 企画財政課 電話 055 948 1413